

2. 古代日本人の宗教・道徳観

○**信仰**…^{やおよろず}八百万の神 (多神教(⇔一神教(キリスト・イスラーム))・恵みと崇りの神)

- ・**アニミズム**…自然崇拜。大木や大岩などの自然のもの(無機的なものであっても)に霊が宿るという考え。
- ・**祖先崇拜**…死者の霊→祖霊(山・海)→祖先神(信仰対象) (ex. お盆…(祖先の)迎え火・送り火)
- ・**カミ**・**氏神**…血縁・地縁集団を守る神。
- ・^{うぶすながみ}産土神…出生地の守護神。
- ・^{としごいのまつり}田の神…^{にいなめさい}祈年祭(豊作祈願)・新嘗祭(収穫に感謝(勤労感謝の日))

次第に同一視

まれびと (折口信夫)…外から来る「何者か」がカミである。

祀る神・祀られる神 (和辻哲郎)…ある神が、神として祀られると同時に自らも他の神を祀る。

○**死生観**…「この世」を享受。(現世主義的)

○**思考**…

- ・おのずから(自然など、それ自体の力がもつ勢い・力などによって現れたものである。)
- ・ハレ(晴)とケ(曇)…日常と異なる正式・公の日をハレ、日常と変わらない普段の日をケという。

○**宗教観**…

・**記紀神話**…『古事記』・『日本書紀』

イザナギノミコト(伊邪那岐命)・**イザナミノミコト**(伊邪那美命)

- ・**天照大神**(アマテラスオオミカミ) (太陽神。高天原(神々の世界)の中心。伊勢神宮に祀られる。)
- ・**素戔嗚命**(スサノヲノミコト) (天照大神の弟。高天原で暴れたために追放される。)

^{たかまがはら}**高天原**……(神々の住まう世界)

^{あしはらのなかつくに}**葦原中国**……(我々の住む現世)……

^{よみのくに}**黄泉国**(根の国) (死者の世界)

- ・古神道…仏教流入以前の民俗的な信仰。あまり体系立ってはいない。

○**道徳観**…

・^{きよ}**清き**^{あか}**明き心**(^{せいめいしん}清明心)・**明き心**・**赤心**…神に対して欺かない純粋な心⇒清し

↑↓
(^{きたなきこころ}黒心・**濁心**・**邪心**・**異心**・**暗き心**・**私心**)

清明心→^{せいちよく}**正直**(中世・武士階級。他人の所有物への欲の抑制。)->**誠**(近世・人を欺かず真実を貫く。)

・**罪・穢れ**…古代日本人の罪悪感。罪とは、共同生活のしきたりを破るものをさす。

→罪・穢れを清める…^{みそぎ}**禊**…神聖な水につかって、心身の穢れを洗い清めること。

・^{はら}**祓え**…罪の代償物や、形代などに罪や穢れを託し、祓いさること。

センター問題に挑戦! No.2 (2008年追試) [標準]

「大祓の詞」に関する儀式として、祓い(祓え)がある。この儀式の説明として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 災害や病気を外部から侵入した邪悪な力によるものと考え、それをなだめ祀ることによって恵みを与える力に変えようとした。
- ② 災害や病気を人間の行いに対する報いと考え、身を慎み、戒律に従って行いを正すことによって平安を得ようとした。
- ③ 災害や病気を人間の心の持ち方によって引き起こされたものと考え、罪を告白し、悔い改めることによって赦しを得ようとした。
- ④ 災害や病気を外からふりかかるものと考え、それを除去したり代償を捧げたりすることによって正常な状態に戻れるとした。

[No.1の答④ 説明は略]